

( 様式 3 )

農業研究成果情報

No.437 ( 平成22年5月 ) 分類コード 01-18 熊本県農林水産部

熊本県在来の小豆から栽培特性、収量・外観品質に優れたこし餡向け小粒種を選定

熊本県平坦部において栽培特性・収量性に優れた熊本県在来小豆「熊選GA01」を選定した。この在来小豆「熊選GA01」は、10 a 当たりの収量は約150kgで、百粒重は約12 g、外観が美しい小粒小豆で「こし餡」に向く。

農業研究センター農産園芸研究所作物研究室( 担当者：田中幸生 )

### 研究のねらい

熊本県における小豆は、195ha( 平成20年産 ) 作付され、流通形態は自家消費や個人、物産館等における販売が主である。このため、加工原料とする小豆は県外産に依存している。

一方、県内産小豆は、流通の場面で“ 肥後小豆 ” の呼称で一般的に使われている場合があるが、種皮色や餡の香りに特徴のある、“ 肥後小豆 ” の存在も否定できず、その形態、生態、及び遺伝性における学術的検証も待たれている。

近年、地産地消の動きから実需者による在来の小豆生産拡大が求められている。

そこで、農業研究センターでは、“ 肥後小豆 ” と思われる在来種を、昭和60年から昭和63年に、県内の各地で約350系統収集していたが、その中から、栽培特性、収量性・外観品質に優れた在来系統を選定する。

### 研究の成果

在来小豆「熊選GA01」は、次のような特徴を有する。

- 1 . 10 a 当たり収量は、150 k g 程度である( 図 1 )。
- 2 . 莢は着きやすく、外観品質に優れた系統である( 表 1 )。
- 3 . 粒の外観は、小粒で明るく、赤味および黄味はやや低い( 図 2、図 3 )。
- 4 . 播種期は 7 月中旬、収穫は青莢10%が適期である。また、小豆は初期生育が大豆より遅いため、条間60cmとした場合、株間20~25cmが適当である( 図 5 )。
- 5 . 餡にした場合、香りは良好であるが、表皮が硬いので、「こし餡」に向く( 表 2 )。

### 普及上の留意点

- 1 . 黒ボク土による試験結果。
- 2 . 早播きや密植は、蔓化し、収量・品質が低下しやすいので、標高別に適期に播種する。
- 3 . 収穫後は、硬実粒( 石豆 ) を防ぐために過乾燥を避ける。
- 4 . 豆科連作での作付けは避ける。

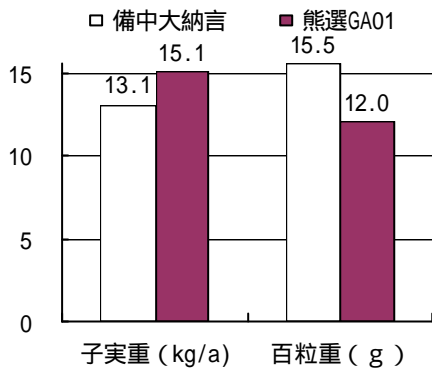


図1 収量と粒の大きさ



図2 左「備中大納言」

右「熊選GA01」

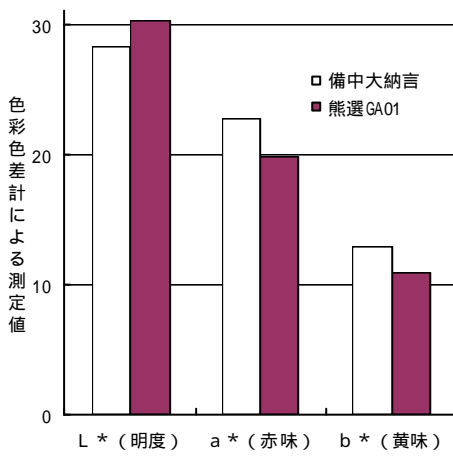


図3 子実の種皮色 (2009年7月中旬播種) ミノルタCR-21単粒法

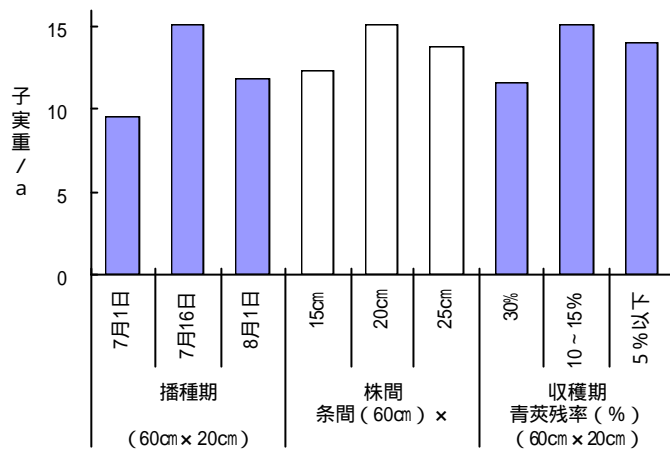


図4 「熊選GA01」の播種期、栽植密度、収穫期別の収量 注) 株間と収穫期の子実重は7月中旬播種の数値。

表1 生育調査

品種・系統名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	主茎節数	分枝数 (本)	着莢数 (莢/m <sup>2</sup> )	1莢粒数	蔓化程度 (0~5)	倒伏程度 (0~5)	最下着莢節位高 (cm)	検査等級
備中大納言	9/7	11/1	56.9	15.2	4.5	278	3.9	1.3	1.2	3.4	3等下
熊選GA01	9/5	11/1	53.8	14.2	5.2	373	4.1	1.3	1.5	5.9	3等中

注) 耕種概要 播種期: 7月中旬(16~20日)、栽植密度: 6.7株/m<sup>2</sup> (H19は75 x 20cm、H20~21は60 x 25cm)、2本立 施肥: N:P:K=0.2:1.4:0.6

表2 餡の評価

品種・系統名	色沢	香り	舌触り	皮の柔らかさ	風味	総合
備中大納言	3.0	2.0	2.0	4.0	2.0	2.0
熊選GA01	2.5	3.5	2.5	1.5	2.5	2.5

注) 数値はK組合および0社によるつぶし餡による評価の平均値(2010)。

数値は5段階評価で、数値が大きいほど良好であることを示す。